



税理士 **名越 隆雄** 会員 **札幌東支部**

共に羽ばたけ！ お客様と事務所、 そして未来の子供達

1. 事務所承継当時

名越隆雄会員は大学時代にアメリカ留学をされ、就職活動時にはアメリカ現地法人がある某S電気会社への誘いもありましたが、お父様である故名越渡来欧先生と話し合い、事務所承継を考え大学院へ進まれ、昭和58年、当時ビッグエイトであった外資系会計事務所・アーサーヤング東京事務所へ入社し、監査部へ配属となり研鑽する日々を送られたそうです。

昭和63年にお父様が病気で入院、その年5月に名越会員は札幌へ戻りましたが、翌年平成元年3月25日に他界されたため、お父様と一緒に仕事をすることがなかったとのこと。「上手く承継ができたのは職員が全員辞めずに頑張ってくれたからで、今でも感謝しています。現在も50年以上勤めている方がいます」と、当時を振り返り感慨深く話されました。

2. TKC、活動

先代が昭和48年頃春野守夫会員（北海道会）にTKCを紹介されたそうです。「TKCの職業会計人、一人ひとりが強い信念と実行力を持つことが、全体として大きな力—これは社会を変えるような力—になる」と、その頃の故飯塚毅名誉会長を回想され、TKCの活動は人間的な成長の基、糧となったとも語って下さいました。

名越会員は、これまで北海道会副会長をはじめ多くのTKCの会務活動をされていますが、企業防衛委

員長時代がご自身にとって最も印象に残っているそうです。平成14年7月から約7年間も委員長を務めて下さいました。企業防衛8原則の下、先代より引き継がれ10年ほどで企業防衛保険保有が約40億円となり、委員長時代に50億円を超えてマスター会員になられたことより、当時のご活躍が窺えます。

企業防衛活動を通じ、他の会員とより親しく交流することができ、職業会計人として刺激を多く受け、事務所訪問からより良い部分を吸収することができたそうです。強い信念を持って活動することの重要性を知り、同時に自身を見つめる機会にもなったと率直なお気持ちをお聞かせ下さいました。また、委員活動は会員の為ですが、結果的に自分の為になると、自利利他の理念を語られ、われわれの委員活動にもエールをいただきました。

「現在、北海道会の企業防衛は隆盛を極めておりますが、非常に喜ばしく思っておりますし、若い先生のご健闘ご活躍を期待しています。全国会・副委員長に本間貴久先生がなったことを非常に嬉しく思っております」と笑顔で話されました。

3. 関与先との関わり、事務所の方針、経営等

社長や従業員の方々と積極的に対話し、企業が本州や海外へ進出、展開するという姿勢と共に、守りながら攻めるという、難しい課題を持って仕事に臨まれ、その志のサポートができる存在でありたいと、関与先への熱い思いを語られました。

在ニセコ外国人オーナー会社等については、外

資系オーストラリア人経営1社からスタートし、現在の海外関係シェアは関与先、売上とも15%ほどのこと、前述同様、コミュニケーションを大切に、オーナーと直接会われて関与を決め、契約書の説明もご自分でされているとのこと。常にCNN、BBCなどから国際情勢や動向に注力され、相互理解を深めることに留意されているようです。

事務所職員の方には、簿記等の資格や英語力、そしてTKC研修参加や監査担当者に中級試験合格、そのほか国際感覚を共有するためにも職員全員参加の海外旅行研修を行っているそうです。意識向上を図られていると感じました。

4. グアテマラ名誉領事、未来の子供達へ

グアテマラ人経営の会社に関与したことから、グアテマラ人と3人でグアテマラやコロンビアにある合計40社以上と現地で商談などをし、ビジネスマッチング、取引サポートをされたそうです。その際、グアテマラ大使館と連絡を取り合い、大使との交流が始まり、約5年前の平成23年4月グアテマラ共和国名誉領事館を札幌に開設し、名誉領事になられたとのこと。

グアテマラは、マヤ文化の中心地で、マヤの人々が多く住み、生活レベルは未だに高くはなく、教育も十分ではないそうです。マヤの人たちへのサポートを念頭に、マヤ文化の紹介も含めた活動を行いたいというお考えです。札幌市には“こども領事”の制度があり、現在グアテマラこども領事は約15名だそうです。

「子供たちには“こども領事”という制度を通し、それぞれの国に対する認識を持つこと、札幌市民が海外をより近くに感じる良い機会と思っています。TKCの会員の皆様におかれましてもグアテマラをはじめ中

米各国に興味を持っていただけましたらありがたいと思います。何かグアテマラについてご質問等ございましたらいつでも聞いて下さい」とのことです。

5. 夢、ニューメンバーズ会員へ

「私の夢は、関与先が北海道のみならず、本州や海外で活躍してもらうことです。そのサポートをしたいと思っています。また、海外の方にはビジネスの場所として“北海道”を紹介していきたいです。ニューメンバーの方々も大きな夢をもってダイナミックに活動し、北海道経済に寄与する人物になっていただきたいと思っています」



取材を終えて

取材直後に行われたグアテマラ・マヤの神話舞台の準備もあり、ご多忙でいらしたにもかかわらず、時間を割いていただき感謝申し上げます。事務所職員の方々の笑顔に迎えられ、名越会員のオープンマインドなお話の中、時が飛ぶように経ちました。中学時代はバスケットボールで中体連3位という体育会系部分もお持ちの名越会員の最近の自転車やスキー事情についても第二弾でお聞きしたいと思います。

(札幌西支部 近藤 勝美)